

## R2 年秋季の堅果類等の豊凶とツキノワグマの出没予測（R2 年 10 月 2 日）

島根県中山間地域研究センター

### 1. 出沒、捕獲および被害発生状況

今年度の上半期のツキノワグマの出没件数（目撃、被害、痕跡、捕獲件数の合計）は、過去 5 年間で最多であった。このうち、5～9 月の捕獲数も多かったが、とくに 8～9 月は有害捕獲の割合が高くなった（図 1）。益田管内ではニホンミツバチの蜜胴やカキ、ナシ、モモ園、飼料工場に、浜田管内では蜜胴、ブルーベリーやナシ、カキ園に、県央管内ではニホンミツバチの巣箱やハチの巣のある小屋などに、また雲南管内ではブドウ、カキ園、トウモロコシ畑などに出没して捕獲された。なお、イノシシ捕獲用のわなへの錯誤捕獲は、4～9 月に各 7～27 頭の合計 111 頭と有害捕獲の 79 頭よりも多かった。

5～7 月に捕獲された個体のうちオスの占める割合は 71%と、8 月以降の 49%に比べて多くを占めた（図 2）。5～7 月に捕獲された個体の年齢を推定するために、2003～2019 年の 5～7 月に捕獲された 1～3 歳の個体の体重・体長と比較した（図 3）。体のサイズが大きいオス成獣も捕獲されたものの、1～3 歳のオスが多く捕獲されたと考えられた。これらのことから、5～7 月は繁殖期に入って行動が活発になったオス成獣と、出生地からの分散過程で人里付近へ出没した警戒心の少ない若いオスが多く捕獲されたと推察される。8 月は春季の餌（新芽・若葉、タケノコ、ウワミズザクラなど）から秋季の餌（コナラ、シバグリ、クマノミズキなど）に移行する端境期にあたるため、餌不足に陥りやすいことに加えて、7 月の長雨によって餌となるハチやアリなどの昆虫類の発生が少なかった可能性があることが、捕獲数の増加に影響したとも考えられた。なお、9 月は餌となるクマノミズキは凶作であったものの、シバグリ等が実ったためか、8 月に比べて捕獲数はやや減少した。

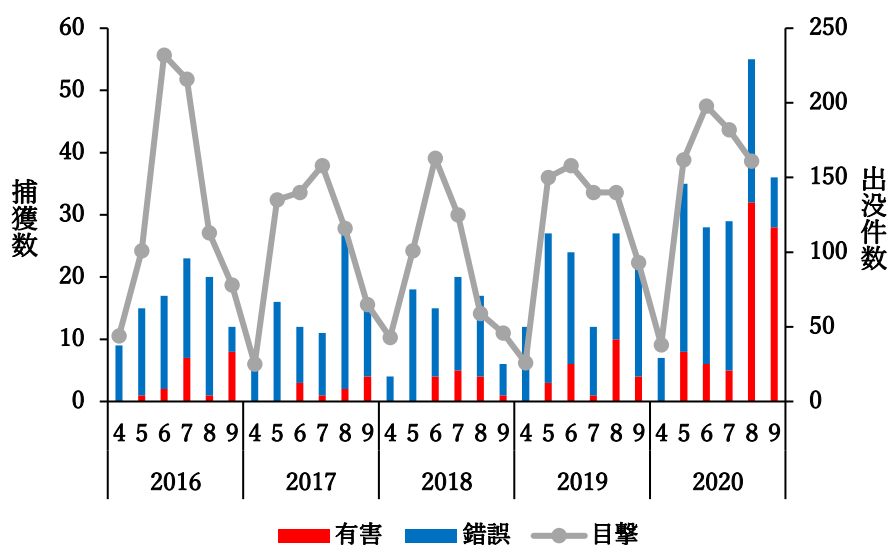


図 1 過去 5 年間の 4～9 月のツキノワグマの出没件数と捕獲数

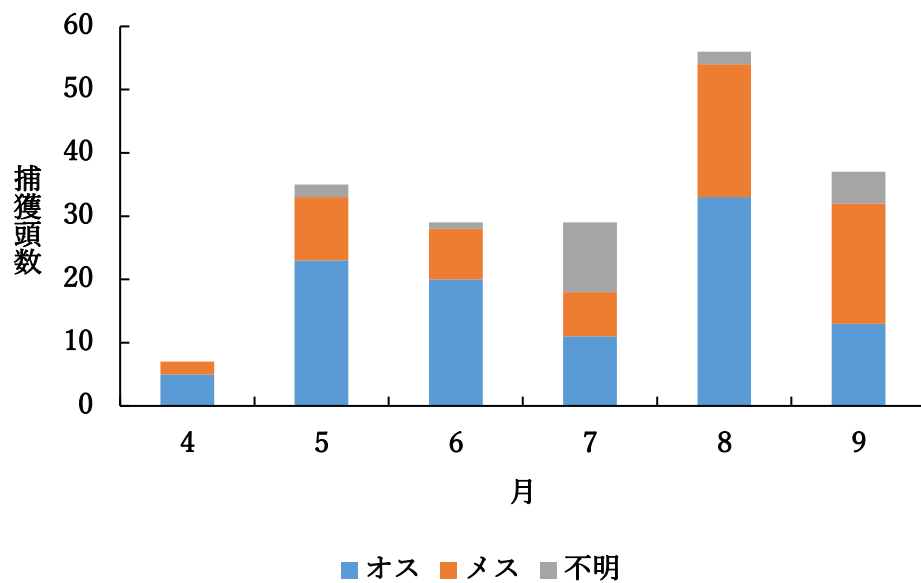


図2 2020年4～9月の性別の捕獲頭数

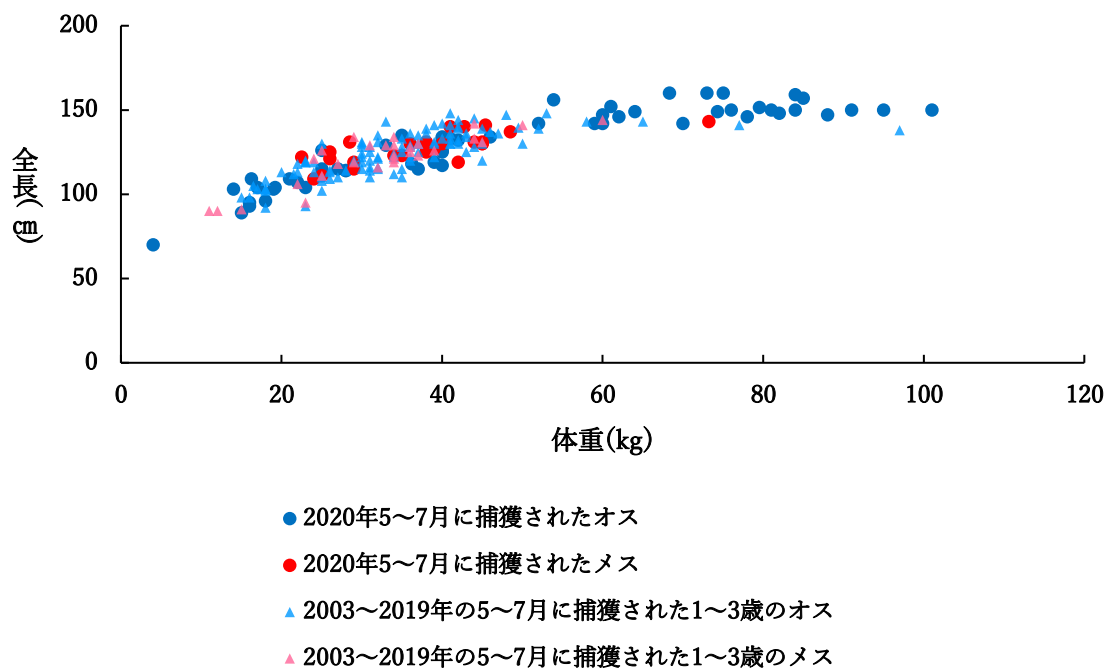


図3 2020年5～7月に捕獲された個体と過去に捕獲された1～3歳の個体の全長・体重の比較

## 2. 堅果類等の豊凶の状況（9月上～中旬の目視調査による評価）

アラカシ	豊作	ミズナラ（西部地域）	豊作
シラカシ	豊作	ミズナラ（東部地域）	凶作
スダジイ	豊作	ブナ	凶作
シバグリ	豊作	クマノミズキ	凶作
コナラ	並作		

## 3. 今後の出沒予測

10月以降は、ミズナラ、コナラ、アラカシなどが並～豊作で実ると予想されることから、人里への出沒や被害発生は増加しないと予測する。ただし、本県で資源量の多いコナラは地域や調査木によって結実数に差が大きかったことから、十分に採食できなかった個体の人里付近へ出沒する可能性もある。とくに、秋季はカキを狙って出沒する個体が多いので、カキへの被害対策が必要である。なお、ブナと東部地域のミズナラは凶作であったが、本県の分布域は標高が高い地域(600～700m以上)に限られるため、クマの出沒への大きな影響はないと考えられる。

今後、今年度に捕獲された個体の年齢、胃内容物、栄養状態などの分析を行って、5～9月に多かった出沒との関連を調査する予定である。